

えでぴあ

立川と語ろう 立川に生きよう

March 2021

Écoutez Bien Vol.37 No.432

3

キャンベル館長メッセージ

表紙／モクレン越しの花粉光環(泉町)



東航通りを知っていますか

案内人：豊泉喜一氏

「東航通り」は砂川三番から武蔵村山横田に通じる、横田街道（通称日産街道）を北に向かい、玉川上水を越え、金毘羅橋の信号の次の信号を右に分岐して入り、武蔵村山市の境界まで凡そ800メートルほどの道路ですが、この道は何故「東航通り」というのでしょうか？

今から90年近く前、ここは立川飛行場にあった陸軍飛行五連隊の射爆場でしたが、五連隊が千葉県柏飛行場に移駐したため、その後に昭和13年（1938）8月、当時所沢にあった「東京陸軍少年航空兵学校」が開設されました。その校名から東京の「東」、航空の「航」ととって「東航」と省略され、そこへ行く為に作られた道路で「東航通り」と名付けられたものです。

「東京陸軍少年航空兵学校」の敷地は、北多摩郡村山村の土地で砂川村との村境にあり、敷地20万坪（64万㎡）、周辺は全て畑と雑木林でした。この学校は高等小学校（現在の中学2年）を卒業し試験を受け、合格した少年がここで1年間、航空の基礎を学び、操縦、技術、通信などの各分野へ進むための学校で、ここの生徒は肩章の縁が鮮やかな空色の制服を着ていました。当時小学生だった私は、時折その訓練の様子を見に行った記憶があります。

その頃東航を卒業した飛行兵が、飛行機で母校を訪問する「郷土訪問飛行」が行われ、砂川小学校の出身で飛行兵になった人が、赤トンボといわれる練習機で母校の上空に飛来し、低空からメッセージを入れた通信筒を落としたことを今でも鮮明に覚えています。

現在でも武蔵村山市は鉄道の駅がなく、交通不便と言われていますが、当時のこの場所は砂川村の北端で交通の便がなく、ここに入學した生徒に面会するため、日曜日の面会日には立川の駅から歩いてくる人たちで五日市街道がにぎやかでした。

戦争が激しくなってきた昭和18年（1943）4月、名称が航空兵から飛行兵に変わり、「東京少年飛行兵学校」となって、通称も「東航」から「少飛」となりました。終戦によりこの「少年飛行兵学校」は閉鎖になりましたが、開校からこの場所で6期～20期迄4万6千人の生徒が巣立ち、その内4500余柱が祖国のために散華したと言われています。

戦後、学校敷地は地元の農家に払い下げられたほか、都営村山団地、大南公園などに使われ、現在農地は住宅地になり、かつての少年兵たちが学んだ場所の面影は殆どありません。

砂川三番から東航通りを北に進むと、立川市と武蔵村山市との境界、武蔵村山市大南3-112にある駐車場の角に、武蔵村山市が建てた「東航正門跡」の石碑があり、「東航」が砂川と村山の村境にあったことがわかります。そこから更に北に進むと、大南3-29-8の住宅の角に、少年飛行兵出身者一同が建立した「少年飛行兵揺籃之地」と記した記念碑があります。

東航の跡地には、上記の記念碑の他には当時を偲ばせるものは殆どなく、かつて大空にアコがれ、国を守るために若い命を散華した多くの若者が学んだ場所として、これからも「東航通り」を多くの人々に知ってほしいと思います。



東航通り（北端から南をのぞむ）



「東航正門跡」石碑



「少年飛行兵揺籃之地」記念碑

立川との4年間

好奇心旺盛な街でしてきたこと

突然やってきて、ワークと駆け抜けていったような。
一度もいやな顔をすることなく、むしろおちゃめな面を全開にしてお付き合いくださった。
ホームタウン立川に、またいつでもお戻りください。

——あつという間の4年、速すぎて本当に4年経ったのかなという感じです。

キャンベル そうですね。昨年はコロナもあったので、これからというチャレンジも残っています。特に商工会議所の若い方たちと一緒にやっていこうという段階でしたから。それは2月、3月過ぎたところでまたお話ししようということになりました。一昨年、当館（国文学研究資料館）に社会連携推進室というものを作りました。それも組織を作ってから中身を作るのではなく、多摩信用金庫さんと提携して、たましんとの共同で「ぶらっとこくぶんけん」を作りました。ありがたいことに、そこに立川市、国立市など立川を中心とした多摩地域の自治体が次々と参加してくださいました。

——「ぶらっとこくぶんけん」というのは、学術や文化の発展で多摩地域が一層心豊かな元氣あふれる街になることを目指していらっしゃる活動ですね。

キャンベル はい。自治体に加えてNPOや地元で教育や文化推進、文化活動をしている企業が目を向けてくださって、プラットフォームを作っています。それができたことがとても嬉しかったです。10年前から国文学研究資料館が立川にあるにもかかわらず、その存在が多摩地区全体はもちろん、立川の方々にもほとんど知られずにあったということが、私の感謝の出発点でした。とにかく「ブラっと」人々が来られるように、そして研究異分野の方々と共同研究、研究者ではないアーティストや翻訳者たちとの共同作業の成果をどうぞ見てくださいと、それだけでなく伴走していただくということが目的でした。その過程を通じて、普段我々も会えないようなクリエイター達と触れ合う事でどんな化学反応が起きるかということをお近くにお住まいの、あるいは働いていらっしゃる皆さんに見届けていただく、またエネルギーを向けていただくことができました。それは立川に限

らず、日本の共同利用機関とか大学、博物館にとつてのモデル事業だと思うんです。

——そうだったんですね。面白いことをなさっているなあと思っていました。

キャンベル 国文学研究資料館は素晴らしい所ですし、海外にはこういう機関はないのです。公の機関ですから、知っていただくことが非常に重要で、私たちも知っていただいて、いろいろな観点から見られ、語り合うことで自分たちのやっていることの意味を、研究者として知る、実感することがとても大事だと思うんです。学術の世界、学会で評価されることは最も重要ですが、インターネットの普及、特にコロナでオンラインが日常化され様々なことができるようになり、時差さえクリアできれば国を越えて世界中の人と一緒にものづくりしたり、リンクしたり同期したりできるので、自分が研究者としてどういうことをやっているかということ発信すること、最初からどういう人たちに向けて自分は研究しているのか、誰に向けてこの問いかけをし、どういう仮説を立てて結論していくのか、もっと大きな図の中で考えることが大事です。誰がそれを受け止めてどういうふう素材として自分の生活や仕事に活用できるかを考えること。やる、行うことができる時代です。——それを立川でなさろうとしている。

キャンベル 私たちが日ごろ当たり前のようにやっている研究を、地域の方々に一緒に伴走していただく、あるいは追いかけてもらおう。それを立川でできたということが僕にはすごく意味があったと思っています。先に申し上げたように、これがひとつのモデルになるといいなと思っています。地方創生にも繋がりますし、若い人たちが人文科学に関心を持って学んでくれる、社会に出た人たちが人生のある段階で、例えば子育てがひと段落した、あるいは退職して、あるいは転職して、そういう時に歴史文化の非常に豊かなものに触れることができ、自分もそ

こに繋がっていけることを、立川だけでなく他の地域の方々にも広めていきたいなと思いました。

——壮大ですばらしいですね。

キャンベル 私たちも工事中といいますが、発展途上のところがたくさんありますので、そんなに大きなことは言えないのですが。

——まさに4年前、東大の研究室で「文化の浅い立川で何をなさるおつもりですか」とうかがいました。

キャンベル はい、びっくりしました。だってそのくらい僕は立川のことを知らなかった。謙遜だと思ったんですよ。

——立川へ来られて最初の頃、「国文研の館長と言っても、肩書に東大名誉教授と書かれる」とおっしゃっていたじゃないですか。

キャンベル そうでした。ちょっと悔しかったですね。最近はもちろん現職を記していただいています。本当におかげさまで、少しずつこの人のアイデンティティは国文研であって、国文研というのは山の中に眠っている倉庫のような資料館ではなく、研究がなされていて海外との非常に太いパイプがあり、実に情報科学や他の様々なサイエンスの分野の人たちと化学反応を起こしているいろいろなことをしていると知られるようになりました。

——そうですね。目の当たりにしてきました。

キャンベル そうなっていくに従って、ただお披露目をする内覧会をして、展示して見せるだけではなく、1つ1つモノが作られていくプロセスを、皆さん忙しいから完走はできなくてもそのひとつの区間だけでも伴走してもらおう。何かが作られている研究が展開して、人々が解決できない問いかけがあって、それをどうやって解決しようとするか、どういう史料があって、それをどう使ってやっていくのか。その史料自体がとても美しく、面白く、風合いがふわっと軽いと知るとか、副産物があるということもわかっ

※
ないじえる芸術共創ラボ展
「時の束を抜く」
古典籍からうまれるアートと翻訳
会場：国文学研究資料館展示室
会期：2021年2月15日～4月24日

開催日など詳細は展示特設サイトへ



ロバートキャンベル館長

て、立川で本当にすごく良かったと思いました。

——具体的に言うとは？

キャンベル 皆さん、好奇心が旺盛で。特に中小企業の方々、たましんを始めみなさんがご紹介くださったものづくりをしている古い会社や新しく起業された会社など、例えば帆前掛けの西村さん（有）エニシング西村和弘氏）のように優れた技術をお持ちの方やおしほりの藤波さん（FSX株式会社）とか、すごい方たちがおられて物を作っている。非常に深いそれぞれのこだわりや思考があって、私たちが今整備しようとしている情報に少しでもアクセスできれば、またそこからいろいろなアイデアが生まれるということも分かってくださっている。フィギュアのコトブキヤさんとの共同企画で、これは※2月に公開されて皆さんにご覧いただけますが、素晴らしいジオラマができたのです。コトブキヤさんによって山田卓司さんというアーティストというか職人の方に繋いでいただいて、このジオラマを作ることができました。

——テレビの企画でジオラマチャンピオンになった方ですね。どんなジオラマなのですか？

キャンベル 江戸時代の後期に作られた『東海道五十三駅鉢山図絵』、盆栽の盆景ですね。お盆の中に景色を53描いているのですが、その中から3つ作っていただきました。本当に素晴らしいですよ。浮世絵と同じ手法で多色刷りの一枚の絵から、その景色を全部創りださなければならぬ。立体化させないといけませんが、ジオラマを取る鉢自体をコトブキヤさんが作っていただきました。目を疑うような、江戸時代の多色刷りから飛び出してきたような、ものすごく精緻なクオリティの高いものですね。それをコトブキヤさんが立川の陶器メーカーで作製した、それはたぶん、この図絵を参照しなければ発想できないものだったと思います。古いけれど新しい、非常に面白い模

様が使われていて、間違いなく新しい表現になっているんです。

——それが国文研で整備しようとしている情報にアクセスすることなんですね。

キャンベル はい。小説もそうですね。私どもの「ないじえる芸術共創ラボ」で川上弘美さんの…。

——小説家の川上弘美さん。感動しました。小説家が国文研とコラボして、古典からヒントを得るといえるのか！って。

キャンベル そう、こうなるか、ですね。川上弘美さんとの対談は、まもなく中央公論で短いですけれど掲載されます。

——研究者ではない、小説家だからの発想で古典を紐解き、現代にそれを繋いでいく。古典として眠っていたものが立ち上がって、起き上がってくる感じがすごかったです。

キャンベル そうです。2月にご覧いただくジオラマはまさにそうなんです。こうしたことはやはり都心ではなく、地元感がちゃんとある立川を中心とする多摩地域だからこそです。立川には吸引力というか、何か面白いことをやろうよという気風が風土としてある。「文化の浅い立川で何をやるか」という4年前のご質問に返す言葉としては、風土として非常に好奇心が強い、目の前にある収支や成果よりも、この人々と組んで長く続くようないいものや関係を作れるんじゃないかなと思う、ある意味余裕ですね、余裕であったり覚悟であったり、僕はここに人々が一貫して持っていると感じるということです。

——みんなで作り上げてきた街ですからね。

キャンベル 今度はそれを私たちがちゃんと受信して、きちんと私たちの力にしていけるかどうかこれがこれからの課題、国文研にとつてのすごいチャレンジだと思います。きちんと身の丈に

あった活動が立川と共に、多摩地域全体とともに行えるかということは、やはり問われる。ひとりひとりの研究者としてあるいは館として、これは、問われると思いますし、私自身もまだしばらく「一冊対談集」が残っていますので、何回かうかがってぜひやらせていただきたいと思っています。

——「一冊対談集」も面白かったですね。会えない方に会わせていただけて幸せな時間を共有できました。為末大さんのすごさや小倉ヒラクさんの独自の世界…。

キャンベル ああ、彼は本当にこれからの人ですね。

——宮本亞門さんのスケールも驚きでしたし、川上弘美さんには本当に感動しました。

キャンベル 次は国立市で森永邦彦さんですね。国立市からのオファーでもありましたが、森永さんと対談ができるというのは願ってもいいことです。世界で活躍されているファッションデザイナーですから。森永さん、山村浩二さんと大物が続きますから、風邪なんかひいてられないです（笑）。

ロバート キャンベル氏

国文学研究資料館長。ニューヨーク生まれ。2017年4月に立川へ赴任してこれ、多くの立川人が親しく触れ合ってきた。その活動は立川を中心とする多摩全域におよび、国文学研究資料館の研究者たちの研究や所蔵する古典籍を、現代の人たちと結びつけ、古の時代に生きた人々を蘇らせてきた。コロナ禍にあつていち早く動画を発信、日本語と英語により疫病が流行った時代の在り方を古典籍から学ぼうと呼びかけた。専門外のどんなことにも精通してらっしゃると言う、節操がない（笑）。すべてに浅いんです」と謙遜された。専門外の人と渡り合うことを「他流試合」と呼び、積極的に挑んでこられているが、古典を読み解くことが先見の明に通じるのか、博物館や資料館のモデルケースたらんと活動されたことが、今後の立川に生かされていくことを期待する。

長い歴史の幕が下ります

おいしい味をありがとう

人がいて味があり、味があるからお店があります。
おいしい味を求めてそのお店にまた多くの人が集います。人が集って街ができます。
街からお店は消えても、その人がいる限りまだどこかでお目にかかれるでしょう。

【 Petit Panier 】

プチパニエ。富士見町、西立川の駅から徒歩5分。小さな手作りケーキのお店でした。ピンクや黄色、薄いグリーンが基調のかわいい外観。幸せのワイルドストロベリーが茂っています。花が咲いて実がなると恋も実るとパティシエであるマダムが教えてくれました。お店の中も優しい色合い。ショーケースには小ぶりできれいなケーキが並んでいました。写真や絵をもとにオーダーするとオリジナルケーキを作ってくれた、誕生日や記念日には欠かせない地元密着のケーキ屋さん。明るい窓際にはティールーム。30年間ありがとうと惜しまれながら、感謝されながら、2020年12月末に閉店しました。



えくてびあんがお願いしたひな祭りのケーキ



パティシエでオーナーの
宇津木みどりさん



【 園部肉店 】

ものすごく働き者のご主人です。もちろん閉店してもご自身は場所を変えて働きます。でも、個人商店で肉屋を営業していくのはとても大変なのだから。砂川から曙町へ移って三代目。90年以上の歴史があります。1月初め、シネマ通りにあった園部肉店の店頭で右のお知らせをいただきました。

シネマ通りのフラワーストリート計画推進にも努力されてこられた園部さん、これからもお元気で活躍ください！



シネマ通りの園部肉店

閉店のお知らせとこれまでの御礼

お客様、地域の皆様、日頃より園部肉店をご愛顧くださりありがとうございます。92年間、営業させていただきましたが、令和3年1月22日をもって閉店することになりました。

先代の急逝もあり、3代目の店主になったのは18歳の時でした。右も左もわからないところから50年間、シネマ通りでは32年間、お客様、地域の皆様に助けていただき感謝の気持ちを持ちながら仕事を続けてきました。

これまで続けていくことができたのもひとえに皆様のご支援ご愛顧によるものと心から感謝申し上げます。

長きに渡り当店をご利用いただき本当にありがとうございました。

園部肉店店主



店主の園部雄布さん

【 純中国料理 北京大飯店 】



まさに地元の要のような存在でした。柴崎町2丁目諏訪通り商店街にあった本格中華のお店。台湾出身の初代がここに店を構えてから55年。一生懸命に味を守り続けてきました。大人数の宴会や子連れのママさんたちに対応できる個室もあって、なによりお値段がリーズナブル。名物だったのはお味だけではありません。女性店主の森さんとフロアの女性スタッフが三姉妹。いつも変わらぬテキパキした接客が好評でした。2020年12月末に閉店されましたが、「また食べたいな〜、あのエビそば」「定食が充実していたよねえ」そんな声がどこからか。



えくてびあんの輪	
えくてびあんはリストのお店にあります。 今日は 錦町・柴崎町・立川市外 のお店です。	
錦町	日本空手道 佐藤塾……………548-7460 三田花店本店……………524-4187 いわさき痛みの整骨院 ……529-5123 にしま薬局……………525-9212 たましん RISURU ホール ……526-1311 たましん 錦町支店……………528-0511 豆やキッチン pocotto ……808-7507 カレー店 CHOTA……………525-1004 パン工房 グラーティア……………512-8667 そば処 高尾亭……………522-2710 Natural Food Restaurant シェいなば 529-5921 Garden & Crafts café 0120-412-877 至誠学会立川……………527-7734 至誠ホーム……………527-0031 至誠介護相談センター ……527-0321
柴崎町	諏訪神社……………522-2968 毎日新聞社グループ(株) 毎日広告社 522-6121 バスタビーン はしや……………521-3386 高島ビル……………526-0111 Hair Room MOON ZETTON 523-0961 南武堂剣道具店……………527-0197 ビジネスホテル 小沢屋……………523-0388 おしゃべりカフェ トーク・スペース 527-1636 ESBI 立川南口店……………526-2947 (株) 一心堂……………527-3777 すがの歯科……………540-2675 紙匠 雅……………548-1388 あすなるクリニック……………529-2756 ピストロこぼ……………525-9929 入船茶屋……………524-6266 串揚割烹 トントン……………524-4521 不動産 コマツホーム……………525-5811 芹沢ガラス店……………522-3065 かみゆい処 わ……………522-8202 ファッションハウス ホマレヤ 525-2788 ホテル ほまれ……………523-0588 ヘアサロン オオヌキ……………528-0809 中国四川料理 山城……………512-8356 酒歩 たから……………528-1510 リサイクル着物 着楽堂……………523-9702 天婦羅・うなぎ 良銀……………522-6702 ギャラリー きらら……………522-3913 生活雑貨 EAST END……………523-9636 特むし銘茶・海苔 菊川園……………526-2035 ジョイフルプラザ……………0120-29-2775 めん心 堤屋……………525-6602 hoccori* café……………595-8379 立川わかば整骨院……………526-8518 (株) 立川紙業……………527-6111 ピスターシュ……………526-7466 中華小皿料理 得得屋……………528-1060 Fashion You Me……………523-1640 石原薬局……………523-4067 サイクルハウス 輪輪館……………522-8100 (株) 正盛堂……………522-2328 小林歯科クリニック……………527-8217 ビューティーサロン ウィスタリア 527-1116
立川市外	昭島市 ECO'S 昭島店……………546-3710 武蔵村山市 中国料理 菜……………561-7233 国分寺市 パンの店 fermata……………534-3334



真如苑提供番組「常楽我浄」

スカパー！：529ch

スカパー！で放送の常楽我浄はスマートフォンアプリ「ivy」（無料）で視聴できます。

J:COM 多摩：11ch・111ch

放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

街の話題

TOPICS OF TACHIKAWA

「もう一度 確認 安心 火の用心」——春は大災予防から

立川消防署では3月1日（月）～7日（日）まで、春の火災予防運動を行います。まだ寒い春先は火災予防を完全に。コロナ禍、在宅が増えるとガスコンロ火災が増える傾向にあるそうです。①調理中はその場から離れない、②ガスコンロの周りに燃えやすいものを置かない、が基本です。調理中にコンロの火が洋服に燃え移る着衣着火火災にも要注意！ 調理中にコンロの奥に手を伸ばすときには、手前のコンロの火に十分注意しましょう。コンロの炎が鍋底からはみ出さないようにするのも大事です。無駄に火を強くしない、これは節約にもつながりますね。防災品のエプロンやアームカバーを使うのも一考です。

住宅用火災警報器の点検を確実にしましょう。本体の交換は設置から10年が目安です。耐用年数の過ぎているものは交換する必要があります。例年3月に立川消防署で開催している「消防フェア」は中止ですが、皆さんそれぞれ自宅の火災予防を万全にして、コロナ禍の安全安心な街づくりを推進しましょう。



肉まんも加熱しすぎると火事の原因に

優良賞受賞されました

東京消防庁では自然災害による被害の軽減や、火災などの未然防止に関する地域の取組みを募集、効果的な事例や優良な取組みを第17回地域の防火防災功労賞として決定、表彰しました。この中で、立川・国立防火防災協会防災指導部会が「2市の枠組みを超えて進める防災～立川市・国立市が育んだ防災の半世紀～」という内容で優良賞を受賞されました。昭和46年に発足した同協会は、現在も立川地区130、国立地区27の自治会・自主防災組織を束ねており、平成15年からは立川市自治会連合会会長が同協会の指導部会会長として就任し、とりわけ立川市においては立川市自治会連合会の支部役員が防災指導部会の役員を兼務することで自主防災力の向上に成果をあげているそうです。

立川のオリンピック

1月18日（月）、「金田スイミングクラブ立川立飛」（高松町）の竣工式が行われました。25m×6レーンのプールは多摩地域で唯一の可動式。深さを135cmから0cmまで変えることができます。ここから子どもたちが世界へ泳ぎだします！ 世界と言えば、竣工式のセレモニーで初泳ぎしたのはオリンピックズ。メドレーリレーのトップバッター背泳は、生まれも育ちも立川の、立川が生んだオリンピック、中野高さんでした。北京オリンピックに出場された直後の2008年11月にえくてびあんで取材させていただきました。（多摩でばこネットに掲載中）子どもたちも日の丸目指して、頑張れ！ 金田スイミングクラブ立川立飛は2月1日にオープンしています。



竣工式のテープカット



セレモニーのメドレーリレーで



竣工式セレモニーでの中野高さん

越冬交代「しらせ」離岸 帰国へ

コロナ対策に万全を期して南極に向かった第62次南極地域観測隊。2020年12月21日に「しらせ」が昭和基地の沖合に接岸、以来短い夏をめいっぱい働いて、2021年1月18日に61次越冬隊と62次越冬隊の越冬交代式が行われました。19日には昭和基地から「しらせ」へ向かう最終ヘリコプターが運行され、基地での作業を終えた61次越冬隊員と62次夏隊員が搭乗、「しらせ」は帰国の復路につきました。昭和基地では引き続き62次越冬隊員31名が滞在、観測を続けます。みなさん、どうぞご無事で！



61次越冬隊と62次越冬隊の入れ替わり



しらせを昭和基地から見送る

写真提供：国立極地研究所

「ぷらっとこくぶんけん」に世界的デザイナー

国文学研究資料館長口パート キャンベルさんの対談企画「ぷらっとこくぶんけん」一冊対談集第6回（1月29日）に、森永邦彦さんが登場されました。森永さんは「アンリアルレイジ」というブランドで活躍される世界的ファッションデザイナー。国立市のご出身なので、対談は国立市長も観覧される中、くにたち市民芸術小ホールで開催。実に面白いクロストークとなりました。この日は事前に申し込んだ観覧者以外にもオンラインによる視聴もありましたが、光を当てると色が変わる服には客席から思わず声が。既存概念を壊す発想、ファッションは思想だと感じました。毎回オンラインで見ることができるこの企画。見ないと損です。この対談はいつものように、中央公論に掲載されます。



光を当てて茶色と青になった服、右の服は黒に変化



森永さん（右）に古典籍から例を挙げて話す館長

テレワークはサテライトオフィスで

東京都が行ったサテライトオフィス提供事業。9：00～19：00まで1日1室500円で利用できるといもの。立川市では東横INN立川駅北口（1月20日～2月18日）とホテルエミシア東京立川（2月19日～3月20日）が対象施設。すでに東横INNはその期間を過ぎていますが、大好評ですぐ満室になったそうです。利用には職場の上司あるいは人事担当者などの「利用同意書」が必要ですが、在宅だと「下書きの送信キーを猫が押し」（サラリーマン川柳から）なんてことがありますから、こうした取組みはありがたいですね。



ホテルエミシア東京立川（曙町）では、機能的なタワー館の利用になるそうです

写真提供：ホテルエミシア東京立川

ステージガーデンのロビーコンサート

寒くても扉を開けて換気をしながらのロビーコンサート。1月も毎週月曜日に行われていました。楽器は毎回変わりますが、1月18日はお正月らしく尺八とお箏で楽しむ約40分。「春の海」に始まりました。25絃箏だと音階が広がって洋楽にも適しているということで、「アメージング・グレイス」など洋楽も実にすばらしい演奏でした。



元永拓さん（尺八）と喜羽美帆さん（箏・二十五絃箏）

表紙

きれいなモノには棘がある

一見美しい写真ですが、ご存知のようにこれは「スギ花粉飛散」の写真です。ハクモクレン越しに見えているのは空気中に大量に舞うスギ花粉。太陽の光にぶつかるこんな現象に。スギ花粉には小さな突起があるそうで、その突起のせいで同じ方向を向きやすい。粒の大きさが揃って同じ方向を向くから虹色がくっきり出るのだという説明。わかるようでわかりませんが、とにかくこの光の輪が見えたら花粉がたくさん飛んでいるという証拠。立川の市花は辛夷です。辛夷の花びらは薄くて6枚。ハクモクレンはもっと肉厚な花びらが9枚。どちらも葉が出る前に白い花をつけて春を告げます。春は花と一緒にスギ花粉も連れてきます。コロナウイルスはそろそろ下火になってくれるでしょうか。

かたこと

◆本誌裏面の「オレの立川ノスタルジー」を語ってくれている鈴木武さんが、若い人がカセットテープを手に「これ、何ですか?」と言ったと話してくれました。テレビ番組を録画するのだけれど、どうやって再生したらいいのかわからなくて息子さんに聞くのとか。小欄もそんな経験、何度もあります。新聞の挿絵にカセットテープの穴に鉛筆を通して様子がありました。何をしているところか、往年の青年にはわかるでしょう。ちょっと前のことだったはずなのに、今はそんなアナログ見ることはない◆日向に長時間置いておいたテープが伸びちゃって、音がプョーンプョーンしたとか、ラジカセにマイクがなくてそのまま録音して周囲の物音がみんな入っちゃうとか。でもあの頃の青少年には夢があったと新聞にありました。不自由な方が夢を掻き立てるのかもしれないです◆感染症で何もできなくなったように思うけれど、鬱々とするのではなくて、夢を思い描く時間にするのもいいかもしれません。国文研の「一冊対談集」を視聴して、デザイナーの森永邦彦さんが訥々と話すのを聴いていたら、この人は哲学者だと思えてきました。積み木とかブロックとか、黙々と積み上げていた少年だったそうですが、その体験が形にとられない、形を超えた形の服を作り出したのかもしれませんが◆春が来ます。先を明るく見て、負けない心で頑張る！ それしかないですね。 えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん ⑥

3月号 第37巻 通巻432号

令和3年3月1日発行
発行 有限会社えくてびあん
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
E-mail message@tamatebakonet.jp
URL https://www.tamatebakonet.jp
発行人 黒須 環
企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ
デザイン 池田隆男（WATER DESIGN ASSOCIATES）
印刷 三浦印刷株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。

Écoutez Bien March 2021 No.432

立川がもっとも立川であった時代



昭和色 立川の風景カレンダー その15 Air Base (写真：榎本行男)

デモ屋で買った怪獣のブロマイドを、泣きながら火に投じたことがトラウマになっているオレ。今あのブロマイドが手元にあったら…と思うと悔やまれてならない。妹が実家の蔵を改造してカフェを始める時も、そこに眠っていた祖父のタンスや祖母の長持ちなど価値はないものかもしれないが、会社に運び込んで積み重ねてある。どの家でもそうだと思うが、子や孫の世代になると、特に写真などはどうしてもいいものになり散逸してしまう。過去は戻らないが、写真に撮られた記録で蘇らせることは可能だ。しかしその証拠となる写真がないと、過去は過去として葬られてしまう。今はそれを守ることでできる最後の時ではないだろうか。スナップ写真の背景に貴重な風景が映っていることもある。

昭和の立川の写真をお持ちの方は、ぜひご一報をいただきたい。オレは写真集としてかつての立川を伝えているが、親父の亡くなった年齢を考えるとあと何冊作れるだろう。立川に米軍基地があったことすら知らない世代が増えてきた今、負の遺産としてではなく、立川が最も立川であった時代を少しでも多く遺せたらと思う。